

特集 令和7年度予算概要

私が市長に就任して初めての当初予算編成となります。市長就任にあたり「将来にわたり持続可能な矢板市の再構築が急務である」と申し上げました。この当初予算は、その実現に向けて動き出す重要な予算となります。

矢板市の現状としては、昨年4月に消滅可能性自治体に該当し、今後30年間で若年女性の人口が半減すると示されています。人口減少時代にあっても将来にわたって、矢板市の活力を創り続けたいと心から思っています。矢板市の実情を分析すれば、自然動態（出生・死亡）改善のために必要な社会動態（転入・転出）の改善といった視点が重要になります。市民が安心・安全に暮らせる環境づくりを進め、子育て世帯や若者をはじめとする全ての世代の方々が、矢板市に住みたい、住み続けたいと思える、選ばれるまちづくりが急務と考えています。

またこれらのことに行政は、スピード感をもって応えていく必要があります。市民の皆さまから託された貴重で限られた財源と資源を有効活用し、最大の効果を発揮できるよう全力を尽くします。

今後も施設の老朽化対策など、先送りできない大型事業が控えています。それらを含め、未来の市民福祉の充実のためにも、「新たな財源の確保」、「稼げる矢板市」を目指し、それに向けた創意工夫にまい進することもまた、30年後、50年後を見据えたときに非常に重要であり、緊急の取り組みであると認識しています。

令和7年度におきましては、目まぐるしく変容する社会情勢にあっても、直面する課題の克服に向けて挑戦し、変革していく元年であるという気概を持ちながら、スピード感のある市政運営を基本としつつ、未来に向けて「変化」と「成長」を遂げる足掛かりとなるような予算編成といたしました。

市政の進捗状況や事業の仕組みなどにつきまして、わかりづらいというご意見もいただいております。今後は時折、事業について詳しくご紹介するコーナーを設ける予定ですので、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



矢板市長 森島 武芳

Yaita vol.1180 広報やいた 2025 年 4 月号

CONTENTS 目次

- 2 特集 令和7年度予算概要
- 8 やいた応援大使・ヤイタゴハン ほか
- 10 子育てひろば・図書館へGO！ ほか
- 12 今月のニュース&トピックス
- 16 はつらつ通信
- 19 市からのお知らせ
- 32 ゆかりびと・編集後記

COVER 表紙の写真

表紙は、泉保育所の修了式の後に撮影させていただいた8人の新1年生です。修了式でお別れの言葉や歌などを披露し、たくさんがんばった後の撮影会となりましたが、みんなの元気は無限大。うれしそうにランドセルを背負って笑顔を見せてくれました。



POPULATION 人口 (3月1日現在)

30,026 人 (△47)	出生	9 人
男 14,966 人 (△23)	死亡	32 人
女 15,060 人 (△24)	転入	59 人
13,356 世帯 (△7)	転出	83 人
() 内は 2 月 1 日との比較	※住民基本台帳をもとに算出	
△は減		

#01 産業振興

時代に即した商工業を盛り上げる



安心して働けるまちを目指す

1,710 万円

企業を誘致し、更なる雇用拡充につなげるため、新産業団地の整備に向けて本格始動します。候補地を絞り込み、整備の可能性を探る基本計画などの策定を進めます。



矢板市の新たな魅力づくり、さつまいも産地化へ

200 万円

さつまいも産地化へ向けて、新規作付・作付転換・作付維持などを支援すると共に、機械導入費用などを補助し、特産品化を応援します。



スポーツツーリズムを推進

920 万円

城の湯温泉やすらぎの里・宿泊棟などを活用した合宿などを誘致し、交流人口の増加とスポーツツーリズムを推進します。



スマート農業化をサポート

30 万円

ドローン技術認定に要する経費を補助するなど、先端技術の導入を支援し、スマート農業化を推進します。



人材発掘・UIJ ターン採用を強化

150 万円

市内企業への就業促進・人材確保を図るため、就業イベントなどへ出展する企業を支援します。

- 無業者・非正規雇用者を正規雇用へ転換した事業主に支援金を交付。
- 若い世代や女性向けの就業イベントを開催し、市内企業への就業促進・人材確保を支援。
- 生産・経営の安定を目指す新規就農者の育成を支援。
- 高原山が持つ自然の魅力を満喫する観光拠点「山の駅たかはら」を運営。
- スポーツ大会や合宿を行う各種団体を支援。
- 農産物の輸出拡大やインバウンドの獲得を図り、市内経済の国際化を目指す。
- 農産物の被害を減らす地域ぐるみの有害鳥獣対策。
- 多種多様な分野の企業を誘致し、まちの産業を活性化。
- 地域活性化起業人制度を活用し、現状把握・課題解決しながら、市内企業の人手不足解消を目指す。
- 「観光」「文化」「スポーツ」を融合させた事業を展開しながら、新たな魅力の創出。
- 毎年楽しめる季節に合わせたイベント開催の支援。
- ふるさと納税の新たな返礼品の発掘や、企業型・クラウドファンディング型の活用などを探り、市の魅力を発信。
- たかはら材を活用した住宅の木造・木質化を支援。
- 店舗や事務所など住宅以外で内装や建具にたかはら材を活用する方に補助金を交付。
- 林業の担い手確保や育成、林業従事者の安全衛生に係る費用の一部を補助するなど、林業の成長産業化を促進。
- 森林環境譲与税を活用し、森林の整備・管理。

#02 防災

自然災害から命を守る・安全で災害に強いまち

web 版ハザードマップ導入で、防災意識を多世代に

770 万円

2020 年発行のハザードマップを更新し、新たに web 版の提供を開始します。さまざまな媒体で広く周知を図り、事前に備えることで、災害被害を最小限にとどめます。



- 災害時に対策本部としての機能を持つ子ども未来館に、再生可能エネルギー機器を整備し、非常時電源を確保。
- 各家庭での再生可能エネルギー・省エネルギー機器の購入支援。
- 消防団と自主防災組織の合同訓練を実施し、連携を強化。
- 矢板小学校に再生可能エネルギー・省エネルギー機器を整備し、非常時は避難所として指定されている体育館で活用することを検討。
- 防災無線や地域情報メールを通じて防災情報や市の情報を伝達。
- 市内 24 力所にある指定避難所の管理。
- 災害用備蓄品の管理。

#03 未来志向

未来社会を切り拓く・若い世代が輝くまち



多様な教育機会を提供し、未来を担う子どもたちの学力向上の推進

3,900 万円

児童生徒用タブレット端末を更新し、AIドリルなどを活用するなど、子どもたちの創造的な能力の育成を図り、「未来社会を切り拓く力」を育みます。



東小学校の大規模な施設整備

11 億 3,080 万円

市の主要小学校の 1 つで、竣工より 50 年以上が経過している東小学校の施設整備を進め、子どもたちの教育環境を整えます。

若い世代の移住・定住を支援します

5,300 万円

子育て世代で、新築・中古住宅を求める方に支援をするほか、親世代との同居・近居を目的としたリフォームや空き家活用の費用を補助します。
*詳しくは P24 をご覧ください。



- 文化スポーツ複合施設を拠点に、スポーツ・文化を軸としたコミュニティづくりの推進。
- 多世代が交流する「生涯学習フェスティバル」を開催し、さまざまな世代をつなぎ、生涯にわたり成長するまちを目指す。
- テレワークによる県内外の IT 関連企業やパソコンを用いた事務職などの就業を支援。
- 子育て世帯などの夫婦に対し、初めて矢板市に居住する場合に家賃の一部を補助。
- 市外に通勤する若い世代に対し、通勤に係る経済的・心理的負担感を軽減するため通勤費を支援。
- 市公式 LINE の機能拡張により市民との双方向コミュニケーションツールを確立。申請・予約機能、通報機能などを追加予定。

#04 健康・子育て

心と体の健康づくり・子育てしやすいまち



乳幼児健診のデジタル化で保護者の負担を軽減
160万円

乳幼児健診に一部デジタル化サービスを導入します。問診票の入力や当日の受付などをスマホからできるようにすることで、手続きのスマート化を図ります。



各種事業で産前・産後ママの心と体をケア
600万円

産前にはストレッチなどを行うマタニティ教室、産後には赤ちゃんと一緒に医療機関で相談やリフレッシュができる産後ケアなど、さまざまな事業で母子を支援します。

健康教室で楽しく健康寿命を維持

610万円

フィットネスや手軽にできる体操のほか、料理教室や講演会など、多世代を対象としたさまざまな健康教室を開催し、市民の皆さんの健やかな「健康」生活を応援します。



- 産後ケア事業利用者に対し、自己負担額の一部を減免。
- 子宮がん検診無料クーポンの対象を20歳および30歳へ拡充。
- ファミリーサポートセンター会員のスキルアップとしてベビシッター養成講座の受講を支援。
- 母子手帳機能のほか、子育て情報の発信などができる子育て支援アプリの運用。
- 泉きずな館で、多世代交流もできる子育て支援センターの運営。
- 泉常設型サロン「いこいず」の運営を通じて、高齢者を対象とした居場所づくりを推進。
- 両親参加型の育児教室などを開催し、パパママを支援。

#05 安心安全

暮らしに寄り添う・安心快適なまちづくり



生活道路に自転車専用通行帯を整備
4,130万円

長峰公園から文化スポーツ複合施設までの区間の舗装修繕工事に合わせ、自転車専用通行帯を整備し、通勤通学などの安心安全を図ります。

- 橋の安全を確保するため、点検と修繕工事を実施。
- 認定外道路の舗装工事を行う行政区に工事費用を補助。
- 地域が中心となって生活に密着した道路を修繕する際、原材料を提供。
- 個人・自治会・商店会・企業その他のグループなどと連携し、きれいな道とまちづくりの推進。
- 都市計画道路わかば通りの整備に向け用地補償などを実施。
- デマンド交通・中央部循環路線バス・地域共助型生活交通コリント号など、矢板・泉・片岡地区のニーズに合わせた生活交通サービスを提供。

令和7年度 矢板市一般会計予算

歳出について、増加した主な費目・増加額は、総務費が地方自治体システム標準化・共通化や電子入札導入等により2億223万円、民生費が障害者総合支援事業や児童手当支給事業などの増加により1億9,072万円、衛生費が各種健診・検診事業、予防接種事業等の増加により4,877万円、教育費が東小学校施設整備や文化会館解体事業等により10億4,596万円の増となりました。一方、減少した主な費目・減少額は、土木費が都市構造再編集中支援事業やわかば通り整備事業の減少により1億6,645万円、商工費が中小企業振興資金貸付事業の減少により1,852万円の減となりました。

各会計予算額比較表

各会計予算額比較表				
区分		令和7年度	令和6年度	増減率
一般会計		158億9,200万円	144億6,200万円	9.9%
特別会計	介護保険	31億1,040万円	31億150万円	0.3%
	国民健康保険	34億5,830万円	35億120万円	▲1.2%
	後期高齢者医療	5億3,660万円	5億850万円	5.5%
	ハッピーハイランド矢板排水処理事業	1,070万円	1,160万円	▲7.8%
	小計	71億1,600万円	71億2,280万円	▲0.1%
水道事業会計		12億2,200万円	12億2,500万円	▲0.2%
下水道事業会計		11億5,800万円	11億5,280万円	0.5%
合計		253億8,800万円	239億6,260万円	5.9%

歳出

158億9,200万円

総務費
17億
8,357万円
(11.2%)

土木費
16億
8,286万円
(10.6%)

公債費
12億
7,948万円
(8.0%)

衛生費
11億
715万円
(7.0%)

消防費
6億
1,229万円
(3.8%)

農林水産業費
5億
7,079万円
(3.6%)

商工費
4億
2,461万円
(2.7%)

議会費1億4,726万円(0.9%)
その他3,299万円(0.2%)

用語の説明

- 民生費** 高齢者や子どもの福祉、生活保護などにかかるお金
- 教育費** 学校教育や生涯学習にかかるお金
- 総務費** 市役所の業務管理、DX推進にかかるお金
- 土木費** 道路や橋、公園などの整備や管理にかかるお金
- 公債費** 市の借金返済にかかるお金
- 衛生費** 健康の保持増進、環境保全などにかかるお金
- 消防費** 消防・防災活動などにかかるお金
- 農林水産業費** 農業・林業・水産業の振興にかかるお金
- 商工費** 商業・工業・観光の振興にかかるお金
- 議会費** 議会の運営や議員の活動にかかるお金
- その他** 労働費や諸支出金など

歳入

158億9,200万円

自主財源 68億1,964万円(42.9%)
依存財源 90億7,236万円(57.1%)

市税
46億
8,000万円
(29.4%)

地方交付税
30億
1,300万円
(19.0%)

国庫支出金
21億
6,005万円
(13.7%)

市債
15億
8,140万円
(10.0%)

県支出金
11億
7,721万円
(7.4%)

税交付金等
9億6,270万円
(5.9%)

地方譲与税
1億7,800万円
(1.1%)

使用料及び手数料
1億5,817万円
(1.0%)

諸収入
6億
3,873万円
(4.0%)

繰入金
9億
1,165万円
(5.7%)

繰越金
2億5,000万円
(1.6%)

その他
1億8,109万円
(1.2%)

歳入について、市税のうち個人市民税は、景気動向の持ち直しや最低賃金改定等により給与所得を中心に増加が見込まれるなど、2億1,817万円の増を見込んでいます。法人市民税は、製造業や小売業などにおいて好調が見込まれることから、5,442万円の増を見込んでいます。これらの結果、歳入の根幹である市税全体は46億8,000万円を見込み、2億8,806万円の増となっています。このほか県支出金は、6,973万円の増、市債は5億4,810万円の増となりました。自主財源・依存財源ともに昨年度から増加しますが、自主財源の増加額が依存財源の増加額を上回るため、自主財源は1.0ポイント増の42.9%、依存財源は1.0ポイント減の57.1%となっています。

より詳細な予算情報は、市ホームページからご覧ください。

